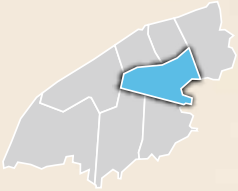


Konan

江南区

P125-P166

新潟市民文化遺産（ぶんかいさん）ガイドブック

有形文化遺産

MAP008

めいろのまちふくろづのみちをちゅうしんとしたまちなみ

迷路のまち袋津の道を中心とした町並み

江南区袋津地区

袋津地域は500年の歴史を持つ地域で、当時から集落が形成されていました。地形なりに出来た道は、ヒューマンスケールで迷路のように形成されています。その道が、今もなお当時のまま残り、その道を中心に生活が営まれています。まち歩きによってそんな迷路のまちを体感してみませんか。

推薦団体　亀田まち歩きガイド

有形文化遺産

MAP008

あいづはん・さかやじんやひ

会津藩・酒屋陣屋碑

江南区酒屋町832-2（酒屋町民の家敷地内）

会津藩は慶応元年（1865）会津領となった酒屋村を外港とし、阿賀野川・信濃川二つの川を経由して直接物資の出入りを行うことを計画、そして、慶応3年（1867）、水原にあった陣屋を酒屋村に移すことになりました。慶応4年（1868）1月3日、戊辰の役が始まり、2月には会津を始め越後の各藩が酒屋に集まり8日間にわたり会議が開かれました。世に「酒屋会議」として知られています。しかし8月2日の朝、酒屋陣屋は俵柳村出身の小林政司が率いる農兵隊によって攻撃され、陣屋は炎上しました。ここに会津藩による酒屋支配は終わりを告げますが、会津そして会津領であった津川との交流は阿賀野川・小阿賀野川二つの川を通じて密接となり、明治以降の酒屋町の繁栄が築かれたといわれています。

推薦団体　酒屋町自治連合会

有形文化遺産

MAP009

横越神社（よこごしじんじゃ）

江南区横越中央5-6-22

かつては宮原という場所に熊野若宮社が鎮座し、横越の総鎮座でした。これとは別に寛文9年(1669)に現在の横越神社近くに新明宮が建立され、鎮座したものの嘉永6年(1853)に焼失、安政2年(1855)に再建されたと言われています。その後、宮原の熊野若宮神社が大正10年(1921)に移され、新明宮に合祀されて横越神社となりました。

社は50m曳家をして移設、鳥居は1㎞離れた宮原から分解して建てられました。神社の守り神は八咫烏です。

8月下旬の秋季祭礼に「恒心会神楽」、「中組神楽」が奉納されます。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

妙泰寺（みょうたいじ）

江南区横越川根町1-11-33

妙泰寺は寛永9年（1632）に新発田藩医養善院日随が施薬のために来留、寛永19年（1642）に草庵を建てて開山しました。日随使用の薬研（江戸期の薬の調合機）があります。

胞姫神御祭は、安産と子育ての神様として尊敬されている「胞姫神（えなひめさま）」の縁日に安産や子ども、孫の健やかな成長を願うものです。修行を積んだ僧侶が、読経しながら経典で訪れた人の背中を擦る等して加持祈祷を行うもので、妊娠した女性や子ども連れの母親や祖母等地区内外からも多くの人が訪れます。その昔、源義経が奥州落ちの途中で奥方が産気づき胞姫神に祈ったところ苦痛なく子どもを産むことができたという伝説が柏崎に残っており、その神様を祀っている妙泉寺から明治26年（1893）に分霊したものが妙泰寺に安置されています。

<開催時期>

胞姫神御祭:

4月15日、9月15日

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

かんばらよこごしぐみだいしょうややしきあと

蒲原横越組大庄屋屋敷跡

江南区横越東町1-6付近

蒲原横越組大庄屋は、新発田藩横越島の113カ村（約1万石）を統括支配する権限を委譲され、元文期（1736～1741）以来、この大庄屋に建部・小林の二軒が任命され交代で務め、両家がその治所を構えていた屋敷跡があります。

「小林存　生誕の地」と歌碑、「史跡　小林大庄屋跡」「史跡　建部大庄屋跡」の案内版があります。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

きょうとだいごじそうのやすみどころ

京都醍醐寺僧の休み処

江南区横越中央（横雲橋西詰側）

初代横雲橋の架橋地点には、対岸の「深堀河渡（ふかほりこうど）」と往来する船着場として、横越には「重蔵（じゅうぞう）どん河渡」がありました。その近くには休み処もあり、450年ほど前に京都醍醐寺の僧が立ち寄っています。

「永禄6年北国下り遣足帳」によれば、翌年の永禄7年（1564）6月26日に馬下からの送り衆と酒を飲み昼食をとっています。「三十文・宿より送り衆・サケ・ヨココシニテ」と記されています。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

こばやしながろうの「さとかわのうた」

小林 存の「里川の歌」

江南区横越中央（横雲橋西詰側）

初代横雲橋の架橋位置より少し上流には、「五ノ堀」という阿賀野川から直接取水する用水の取水口がありました。阿賀野川改修事業によって廃止されるまでは、横越下郷の水田60ヘクタールの用水路としてその役割を担っていました。

横越村の偉人と言われる小林存（ながろう）の生家は五ノ堀に近く、少年時代を回顧して望郷の歌を詠んでいます。昭和20年代後半の短歌です。

「里山にメダカ掬いて遊びたる　遥かなる日のまぼろしに立つ　存」

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

こばやしながろうの「そくらてす」のかひ

小林 存の「ソクラテス」の歌碑

江南区いぶき野1-1-2（横越地区公民館前）

江南区

「われこそは街の酒場のソクラテス　君與んか毒杯もまた」の詩は小林存が魚沼で詠んだもので、短歌を作り始めたごく初期の作品だといわれています。

当初、この歌碑は横越小学校に建てられ、旧公民館へ、そして現在の公民館に移されました。

豪快に酒をあおりつつも、知的巨人として爽快なまでに反骨精神をむき出しにした表現で人気が高い短歌です。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

だいしょうやたけべけのすずきじゅういんせんぶんによるなおゆきぼひ

大庄屋建部家の鈴木重胤撰文による尚行墓碑

江南区横越東町1-7（いなほ公園）

新発田藩蒲原横越組大庄屋を務めていた建部家第7代当主であった建部尚行は、本名は庄助、諱は尚行、字は干伯、横渠と号しました。江戸時代後期の国学者・鈴木重胤の門下となり国学を研究する一方、漢詩も詠んでいました。嘉永4年（1851）に亡くなりましたが、尚行の活躍を讃えるため、師匠の鈴木重胤が建部家に墓碑銘を贈りました。新発田藩大面組大庄屋諸橋家の慶三郎（後の建部蔵軒）の弟の子どもが「大漢和辞典」を著した諸橋徹次博士です。

新潟市指定文化財

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

曽我順次墓碑（そがじゅんじぼひ）

江南区横越下郷（横越中学校付近）

曽我順次は、元同前組頭曽我家の当主で、明治12年（1879）第1回選出の新潟県会議員でした。明治8年（1875）就安社を設立し、横雲橋の架橋に尽力しました。開橋を控え、曽我は横越村の希望を象徴する橋名を考え、当時の楠本県令とも知遇を得ており、県令は「横雲橋」の墨書に「曽我順次に請われて書いた」と添え書きして曽我に送りました。

教育面でも活躍し、明治9年（1876）の横越小学校開校においても、その祝辞で県令永山盛輝の参列に「当校を以て嚆矢となすといふ」と誇らかに記しています。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

きゅうよこごししょうがっこうあとのひ

旧横越小学校跡の碑

江南区横越中央5-2-3付近

旧横越小学校の門柱は昭和9年（1934）10月8日横越同窓会と刻まれた正門用、通用門用の計4基があり、そのうちの1基を利用し、旧横越小学校の歴史を後世に伝えるため横越村が昭和62年（1987）に旧横越小学校の跡地に建立しまた。

旧横越小学校は明治5年（1872）個人宅で開講し、明治8年（1875）の校舎新築の開校式には新潟県の教育に力を注いだ県令永山盛輝も出席しました。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

「よこごしこう」のへんがく

「横越校」の扁額

江南区横越中央6-3-1（横越小学校）

県令永山盛輝（明治8年（1875）11月着任）は、前任地筑摩県で教育県令として名声があり、教育振興策を次々と打ち出し、就学率24.2%（明治7年（1874）当時）にも満たない本県の教育に力を注いだ県令でした。小区長・戸長と連携を取り、就学者増加の実をあげるよう指示していた彼にとって横越小学校の開校式参加は喜ばしいことでした。

<見学不可>

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

あがのがわわたしぶねのなんぱとくようのじぞうどう

阿賀野川渡船の難波と供養の地蔵堂

江南区横越東町

文政12年(1829)8月、強風の中、人30人、馬3匹をのせ出航、渡河中に楫が折れたことから転覆、8人が死亡したもので、この難破を悼んで供養の地蔵堂が建てられました。

推薦団体 横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

もくぞうせいかんのんぼさつりつぞう

木造聖観音菩薩立像

江南区横越上町2-11-17

木造聖観音菩薩立像は、通称「観音小路」と称される横越上町の観音堂に安置されています。昭和56年(1981)の調査により、室町時代の作であることが判明しました。しかし、近世中期には本体、台座、光背の大修理が実施され、近世後期には前面塗り直しが行われており、顔様や裳の表現以外には古い要素を確認することができません。本体には銘記はありませんが、光背頭光部にはめ込みの銅鏡があり、「藤原光政作」の刻銘があります。厨子の両扉内側には「口誉受讃信尼　霊位」(右扉)、「秋誉栄春信士　霊位」(左扉)、厨子底部裏には「新潟善導寺十五代　萬誉空阿上人(花押)」とあり、これらは近世の墨銘です。

新潟市指定有形文化財

<観音堂は常時見学可能>

<木造聖観音菩薩立像は見学不可>

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

大栄寺（だいえいじ）

江南区沢海3-3-18

寛永8年（1631）伊藤左五右エ門が村上領草水村の観音寺11世笑山全悦和尚を請して満光、極楽、得船の三か寺を合併して大栄寺と改め開山しました。曹洞宗選仏の大道場であり、北越の古禅林として幾多の禅匠を輩出しており、北越研修道場です。

修行僧が寒の30日間、最も厳しい修行のひとつである寒行を行いますが、節分の日をもって満願を迎え、本堂で「大般若経」を転読して終わります。その後は家庭繁栄等を願って撒かれる豆やお菓子を拾う節分が行われます。

また、旗本小浜家の位牌や、「活き如来」の由来をもつ「阿弥陀如来像」が安置されており、沢海藩主溝口家の歴代藩主の墓所もあります。江南区景観百選

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

溝口家墓所（みぞくちけぼしょ）

江南区沢海3-3-18（大栄寺）

沢海藩は、慶長15年（1610）、新発田藩初代藩主溝口秀勝の没後、二代藩主宣勝の弟である善勝（沢海藩初代藩主）が1万2千石の領地を分知されたことで成立しました。二代藩主政勝までは順調に推移しましたが、政武（三代藩主政良の子）は御家存亡の折、23歳で早世。御家断絶の危機を避けるため、姻戚の水口藩主加藤明友の次男政親を養子に迎え四代目としました。

しかし貞亨4年（1687）政親の不行跡により改易になり、沢海藩は断絶しました。大栄寺にある歴代藩主の墓は、二代政勝、三代政良、四代目となるはずだった政武の墓で、初代善勝の墓は江戸屋敷に近い東京都品川区の青松寺にあり、四代政親の墓は滋賀県水口町の蓮華寺にあります。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

芭蕉句碑（ばしょうくひ）

江南区沢海3-3-18（大栄寺）

「いざゆかん雪見に転ぶ所まで」「文政5年（1822）」が自然石に刻まれています。

この句は芭蕉の紀行文「笈（おい）の小文」の中にあり、貞享4年（1687）に出身地の伊賀上野（三重県）で詠まれたものです。沢海は古くから俳句の盛んなところで、芭蕉門下の俳人が何人か横越の地を訪れ、庵を構え、地元の人たちと交流した記録があり、俳祖芭蕉翁の供養を兼ねた句会が行われていました。芭蕉翁の供養を行うにあたって、この句が雪国のこの地にふさわしく、詠まれてからちょうど140年を経たところから、句碑を建立したものと思われます。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

光圓寺（こうえんじ）

江南区沢海2-14-8

享禄2年（1529）、僧教善が岩船郡本庄村（村上市）に開山。

沢海は慶長15年（1610）から貞享4年（1687）まで沢海藩が置かれ、沢海藩が改易された後、幕府領となり、現在の光圓寺境内に出雲崎代官所の出張陣屋が置かれました。その後、宝永4年（1707）から明治維新までは旗本小浜氏の知行所がありました。光圓寺は寛永6年（1629）に村上から沢海に移り、明治2年（1869）に代官所のあった現在地に移りました。

江南区景観百選

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

日枝神社（ひえじんじゃ）

江南区沢海2-15-30

日枝神社は、明治時代以前は「山王宮」と呼ばれていました。かつて沢海には、上と下のそれぞれに山王宮と諏訪宮があり、この地に新明宮、熊野十二社の計6社が鎮座していました。新明宮と熊野十二社は古くから祀られていましたが、山王宮と諏訪宮はこの地に陣屋が置かれたときに、新発田町の諏訪社、五十公野の山王宮から勧請されたといわれています。

貞享4年(1687)、藩主溝口政親の乱行等を理由に沢海藩は改易となり、廃藩後藩内の神社は荒廃し、下の山王宮に全ての神社を統合し、明治政府の寺社係の小池内広が命名しました。

9月上旬の沢海祭りに沢海神楽が奉納されます。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

そうみひえじんじゃのおおのぼり

沢海日枝神社の大幟

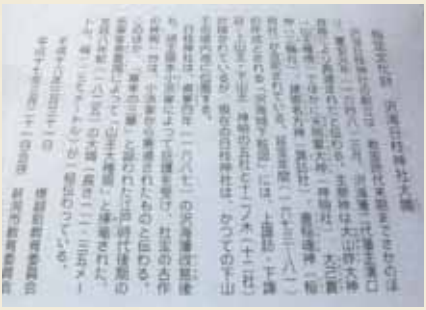
江南区沢海2-15-30（日枝神社）

日枝神社の大幟は、近世中期の三筆の一人である巻菱湖（まきりょうこ）によって文政8年（1825）に揮毫され、楷書と隷書風に書かれています。木綿布製で長さ12.35m、幅1.37mです。文言は「山王大権現」下部に「文政乙酉夏日　巻菱湖大任拝写（花押）」と記されています。

地元の伝承では、巻菱湖が新潟に寄港していると聞き、沢海村住人の陸、田中の両氏が急遽、布を調製し、新潟へ赴いたとあります。巻菱湖は芝居の見物中でしたが、快く承諾し揮毫したと伝わっています。

新潟市指定有形文化財

<北方文化博物館所蔵、見学不可>



推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

あきやまよしふる　きごうせきひ

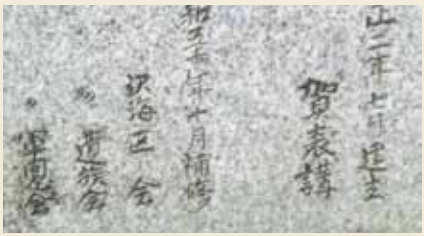
秋山好古 揮毫石碑

江南区沢海2-15-30（日枝神社）

大正2年（1913）7月建立。

秋山好古（1859～1930年）は、「騎兵の秋山」として有名で日露戦争で武勲がありました。日本海海戦で連合艦隊の作戦参謀であった秋山真之の実兄です。中将であった明治末期から大正初期、高田第13師団長当時に沢海日枝神社の忠魂碑の題字を書いていただきました。

作家司馬遼太郎の代表作品の一つとされる長編歴史小説「坂の上の雲」に、主人公秋山真之の兄として登場します。小説は昭和43年（1968）から昭和47年（1972）にかけて「産経新聞」に連載されました。単行版全6巻、文庫版全8巻。NHKでもドラマ化され平成21年に放送されました。



推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

しちめんどうのしちめんさま

七面堂の七面様

江南区沢海1-2-1

沢海では夏になると恙虫に刺され、高熱を発して死亡する人が後を絶ちませんでした。特に天保6年(1835)年の夏は死者が男女9人にも達し、恙虫病を恐れるあまり農作物の収穫作業さえできない状況でした。

慈悲深いと評判の妙泰寺(川根谷内)十四世日周上人に、毒虫退散の祈祷を依頼し、日周上人は村方の信心が固ければ三年間の供養で大願も成就するであろうと言い、塔婆を立てて秘文を唱えました。翌年から恙虫に悩まされることはなくなり、天保9年(1838)には七面堂が建立され、毒虫鎮守七面大明神が安置されました。ご本尊は木彫りの吉祥天女像で、日周上人が与えられたものです。

講は5月1日ですが、宵宮の4月30日の方が賑やかで、吉祥天女像の前で妙泰寺住職の読経から始まり、講中が提灯等を持ち、太鼓を叩きながら七面堂へ向かって歩き、七面堂で読経、加持祈祷を行います。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

やけやまのかぎゅうさま

焼山の蝸牛様

江南区沢海2930（旧焼山）

沢海藩主四代帯刀政有は天和3年（1683）、養子で藩主となるため佐川佐内を伴いやってきました。佐内は政有から忠臣を讒言で遠ざけ、遊情酒色の道へ誘い、城を増改築して藩の財政を困窮させ、村民に税をさらに課したりしたため政治が乱れました。藩士は「このままでは御家の滅亡遠からじ」と貞享4年（1687）5月に佐内の寝込みを襲い、首だけを出した生き埋めの刑にしました。左内は怒り「我が亡魂は幾千万の蝸牛となって領内の作物を食い尽し、末代まで祟ってやる」と言い残してこの世を去りました。翌年から毎年無数の小さなカタツムリが現れて田畑の作物を食い荒らしました。佐内の怨霊ではないかと、その思いを鎮めるために焼山に小さな祠を建てて祀りました。その後、カタツムリの姿は見えなくなり、地元住民は今でも「蝸牛様」といって信仰を寄せています。

<開催時期>

蝸牛様のまつり:4月下旬

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

ほっぽうぶんかはくぶつかん

北方文化博物館

江南区沢梅2-15-25

江戸時代中期、農から身を起こし代を重ねて越後随一の大地主となったのが沢海の伊藤家です。伊藤家の屋敷「豪農の館」は昭和21年(1946)に戦後初の私立博物館となりました。約8,800坪の広大な敷地内に65の部屋を有する1,200坪の館のほか、多数の古美術品が収蔵されている集古館や回遊式庭園があります。木造瓦葺の母屋をはじめ、座敷、土蔵、茶室や別邸の洋風建築(新潟分館)等、30を超える建築物が国の登録有形文化財に指定されています。古墳時代の人形埴輪や良寛の書、中国唐時代の三彩馬等、伊藤家に伝わる所蔵品の展示のほか、四季折々の表情を見せる回遊式庭園も楽しめます。

豪農の館伊藤邸の中庭にある藤は樹齢150年、幹の周りは1m60cm以上。一本の木から枝が広がり中庭のほとんどを占めています。

国登録有形文化財　江南区景観百選　<要入館料>

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

こうみょういんときつやくしにょらいぞう

光明院と木津薬師如来像

江南区木津1-13-16

光明院は天正年間(1573～1592)に戦火で焼失し、慶長年間(1596～1615)に護摩堂城主千坂対馬守の家臣石井隼人らが滅失を逃れた不動明王と薬師如来像を発見し、定勇法印を助けて光明院を再建したといわれています。

木津薬師如来像、中島、竹森(北区高森)を三薬師といい、行基菩薩の作といわれています。元禄4年(1691)にこの御仏を修理したところ、その仏師はたちまち盲目となって死んでしまいました。これは高僧の彫刻に凡人が手を加え、そのうえ玉眼を入れ替えた罰であるといわれています。

木津薬師火祭りは、修行僧による柴灯大護摩(さいとうおおごま)の火渡り修行として伝統ある祭りです。見物客も火渡りを行うことができます。

薬師如来像は新潟市指定文化財。木津薬師、奥ノ院、三柱の鳥居は江南区景観百選

<開催時期>

木津薬師祭り:5月8日

木津薬師火祭り:7月28日

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP008

かもじんじゃのおおけやき

賀茂神社の大欅

江南区木津4-5-3（賀茂神社）

賀茂神社の境内には、樹齢700年以上と推定され、幹の根周り10m、樹高11mを誇る大ケヤキが神木として保護されてきました。

享保2年（1717）の「木津邑古老伝在来帳」によると、下木津の石井隼人左は賀茂明神を氏神とし、天正年間（1573～1592）の勧請と伝えられ、そのまま集落の鎮守として祭られました。

新潟県指定天然記念物

江南区景観百選

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP008

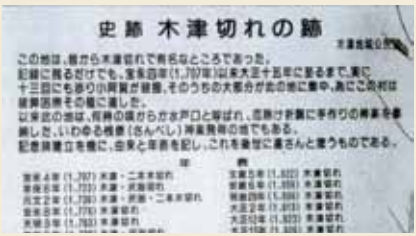
木津切れ跡碑（きつきれあとひ）

江南区木津4-9（小阿賀用水路脇）

亀田郷は中世以来、阿賀野川の洪水とそれに伴う小阿賀野川の氾濫や堤防の決壊で被害を受けてきました。特に大正2年（1913）の木津切れの被害はとても大きく、賀茂神社の下流240m余りの幅で小阿賀野川の堤防が決壊しました。この木津切れで周辺の水戸口集落では家が20軒ほど流され、残った家はわずか3軒、死者は3人、馬も4頭死んで、米の収穫にも大きな被害が生じ悲惨極まる水害でした。また、横雲橋の中央部も流出、亀田郷の低地で排水のよくない地域はすべて水没しました。この他にも明治29年（1896）に小阿賀野川堤防が54m決壊、大正15年（1926）には阿賀用水堤防が決壊しています。

昭和55年（1980）、水害の歴史を後世に伝えるため地元有志たちにより、木津切れ跡碑と水害の年表が建立されました。

江南区景観百選



推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP008

しゃかたんじょうぶつ

釈迦誕生仏

江南区木津4-4-16（圓通寺）

圓通寺の開山は五泉市橋田吉祥寺八世天室舜長和尚。

天保7年（1836）12月に寺が全焼。天保の飢饉で窮乏している時期と重なり、旦（檀）中惣代たちは協議を重ねて、天保8年（1837）2月に「申合極書」をとりまとめ、その年のうちに方丈の住居である庫裏を建てました。焼失から30年後の慶応2年（1866）6月、本堂をはじめとする諸堂が再建されました。

釈迦誕生仏は、天文2年（1533）に普門院から現在地に移転しました。

江南区景観百選

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP008

こじろうやしきはちまんぐう

小次郎屋敷八幡宮

江南区二本木2-11-15

熊谷小次郎が住んだと伝わる下木津村の飛び地(現二本木)の小次郎屋敷は、慶長5年(1600)に小次郎が分田川原で戦死すると無人となりましたが、その後、村木与作が再び開発しました。社は残っていましたが、祭神名は忘れられていたので、新たに諏訪神社として祀りました。しかし、祭礼の御託宣に「別の神号を称しているため、神力も衰えて氏子を守護することもできない。八幡大菩薩と新たに尊ぶならば氏子たちの息災安隠を守るであろう」と出たので、八幡宮であることがわかったのだといわれています。

推薦団体 横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

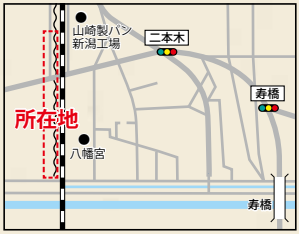
MAP008

二本木水戸池

にほんぎみずといけ

江南区二本木5-3-35

江戸初期に二本木を縦貫し亀田に通じていた水路の名残りです。



推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

小杉八幡宮（こすぎはちまんぐう）

江南区小杉1-10-25

小杉八幡宮は、移転を繰り返し、元禄10年（1697）に現在地に遷座したといわれています。社殿の横には、昭和58年（1983）に水面下4mから掘り出されたケヤキの切り株（御神木）が祀られており、その中からは中国唐の時代の貨幣（開元通宝）が発見されました。江戸時代に水没した御神木を、明治12年（1879）に京都東本願寺へ献木しようと引き揚げ計画が持ち上がり、明治15年（1882）に木場場説教場（新潟市礎町通）の総代坂井若利に引き揚げを依頼し、長さ23m、直径約3mの大ケヤキをようやく引き揚げました。東本願寺に残された書状や建築資料から、引き揚げられた大ケヤキが「国中一円之志願」として虹梁に据えられたことが判明しています。

なお小杉八幡宮には、その一部で作られた坂井直筆の扁額が、百年以上経た現在もかけられています。8月下旬の小杉祭りには小杉神楽が奉納さます。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

松韻寺（しょういんじ）

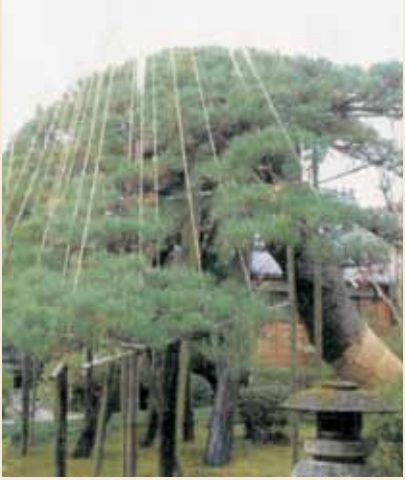
江南区小杉1-9-20

親鸞上人が流罪により越後に滞在していた頃、阿賀野川は洪水を繰り返し、人々を悩ませていました。

松韻寺は、元久元年（1204）良誓法印によって真言宗として開かれました。親鸞上人が鳥屋野を中心に布教された途中、松韻寺に立ち寄られ、良誓法印は親鸞の教えに遭い、浄土真宗に帰依したと言われています。

親鸞上人ゆかりの松の韻（ひびき）を讃え、寺号としたと言われています。

「親鸞上人袈裟掛けの松」と呼ばれている、樹齢約800年、枝葉10m四方、幹周り2.9mの赤松があり、越後七不思議の逆さ竹（西方寺）、八つ房の梅（梅護寺）とともに松竹梅の旧跡とも称されています。



推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

しんらんしょうにんかむろみえいかけじく

親鸞上人禿御影掛け軸

江南区小杉

小杉の中川家に親鸞上人自筆と伝えられる尊像「親鸞上人のお姿」の掛け軸があります。「親鸞上人禿御縁起」によると、上人は承元元年(1207)に越後国の国府に5年間流罪の身となり、鳥屋野で3か年を送ったといわれています。田上護摩堂城主の小原民部少輔俊影は浄土の一門に入り、上人の無二の信者になりました。上人は刑を終えて常陸国笠間稲田郷へ行かれることになり、護摩堂城へ別れの挨拶に一晩教義をされました。民部少輔はこれに感銘し、出家を望みましたが、上人に「武運長久を治め、領地の法儀を引き立てよ」と諭され、民部少輔は「上人のお姿を形見に下さい」と願い出て、上人から尊像を貰い受けました。これが尊像「親鸞上人のお姿」で代々中川家に大切に置け継がれています。

江南区景観百選

<見学不可>

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

こうやまきのたいぼく

高野槇の大木

江南区藤山2-1-12

樹齢370年以上の常緑針葉樹(スギ科)で高さ20m、幹の周囲3m。

高野槇は主に本州中部山岳地帯から紀伊半島山岳部、四国、九州の山地に自生し、世界三大造園木の一つで、木曽五木のひとつに数えられています。

水に強く、朽ちにくいため、古代には棺材の最上級とされ、現在も湯船材や橋梁材として重宝されています。高野槇は高野山に多く生えていることに由来しています。

新潟のような北国で大木になることは非常に珍しく、地元の伝承では、寛永2年(1625)新津田家の田村少右衛門が新発田藩領藤山村名主役を仰せ付けられ、着任したときに植えられたと伝えられています。少右衛門の家は代々村役を務めましたが、宝暦11年(1761)に茗荷谷新田名主に転任しました。この高野槇と家屋敷は分家が受け継ぎ、大切に管理しています。

新潟市指定文化財

江南区景観百選

<見学不可>

推薦団体　横越コミュニティ協議会

江南区

有形文化遺産

MAP009

まつおばしょうのけんしょうとう

松尾芭蕉の顕彰塔

江南区藤山2-4-26

嘉永2年(1849)5月、藤山の金明・花明の銘のある松尾芭蕉を顕彰した「はせを翁塔」が初代田村清右衛門家第6代当主田村清四郎氏こと金明(俳号)を讃えて、弟子たちが建立したといわれています。金明は村松藩主の俳諧の師を務めた人物でもあり、現当主は第11代にあたります。当初碑石だけでしたが、座石を設置するなど田村家で保存に努めています。

<見学不可>

推薦団体 横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

めいじはちねん　くすもとけんれいきごうのおううんばしのへんがく

明治8年 楠本県令揮毫の横雲橋の扁額

江南区横越中央1-1-1(横越出張所)

初代横雲橋は、明治8年(1875)に架橋されました。それまでの長い間、阿賀野川の対岸への行き来は舟に頼るしかありませんでした。その不便を克服するために、当時の横越地域の人々は共同で有料橋を架けました。

橋の長さは約311m、幅は5.4mで、橋の名前は、当時の新潟県令(県知事)楠本正隆によって「横雲橋」と命名されました。名前の由来は、大河阿賀野川に雲がたなびくかのように架かる長い橋、という意味が込められているとされています。

平成27年(2015)所有者の曽我様から横越コミュニティ協議会へ寄贈があり、横越出張所1階ホールに展示されています。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

こばやしながろうの「ながはしのうた」のかひ

小林 存の「長橋の歌」の歌碑

江南区横越中央5-6-22（横越神社駐車場内）

横越出身の偉人、新潟新聞社（現新潟日報社）主筆で県民俗学の泰斗であり、俳人、歌人でもある小林存の名歌「長橋の歌」の歌碑です。

この碑は、「小林存歌碑建立の会」が結成され、小林存を知る人たちの浄財を募ることによって建立され、平成26年（2014）6月6日（小林存の誕生日）に除幕式が行われました。歌碑は横越神社の駐車場の一角で、すぐ近くには小林存の眠る小林家墓所、そしてこの歌の詠まれた「居酒屋吉太郎さ」のあった長橋（横雲橋）の西詰めでもあります。

「ふるさとの堤の茶屋の酒悲し　長橋渡るバスに手を振る」

茶屋の酒でうっかりバスを逸し、バスの通過する音で慌てて裸足で外に飛び出し「オーイ、オーイ」と手を振りながらバスを必死に追いかける存先生。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP009

よこごしじんじゃの「ちゅうこんひ」

横越神社の「忠魂碑」

江南区横越中央5-6-22（横越神社）

川村景明（かげあき）（1850～1926）は、日露戦争の奉天会戦で「偉功を奏した」とされ、大正7年（1918）11月、帝国在郷軍人会の二代目会長となり、翌年に題字を書かれました。

推薦団体　横越コミュニティ協議会

無形文化遺産

さかやだいだいかぐら

酒屋太々神楽

江南区酒屋町424

酒屋の「太々神楽」は八坂社・諏訪社合殿に伝わる採物神楽で西蒲原郡の曽根在の玉木家より、明治5年(1872)頃伝えられました。

屋白・小神楽とは、12の舞の神楽を適宜組み合わせて、6舞に省略して舞うところから来たもので、12の舞を太神楽とし、それに対する呼称となっています。優雅な稚児舞が6舞、格調高い大人舞が6舞あります。

この太神楽は、いわゆる出雲流の神楽であり、古事記や日本書紀に現れた神話を基にこれを脚色し、パントマイム風に演じたものです。榊舞、鎮護の矛、末広、海神、花献(かけん)、久菜戸之神(くなどのかみ)、泰平楽(たいへいらく)、天宇須女命(あまのうずめのみこと)、天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)、事代主命(ことしろねしのみこと)、小弓の舞(〈小弓遊び〉ともいいます)、大国主命(おおくにぬしのみこと)で構成されています。

毎年、春・秋の酒屋神社祭で奉納されます。

推薦団体　新潟市伝承芸能保存会

無形文化遺産

桟俵神楽（さんばいしかぐら）

江南区木津4-6-22（賀茂神社）

桟俵（さんばいし）神楽は、稲わらを編んだ桟俵（さんだわら）を2つ合わせて大きな口とし、ナスの眼にかぼちゃの鼻、熊稈を髪として、歯は唐竹を割り金紙を貼り組み合わせて作られた珍しい手作りの神楽で、毎年秋祭りのたびに新しく作られています。賀茂神社での奉納や家庭を回り、笛や太鼓に合わせて舞を披露。祭りの終わりに地域の人たちが見守るなか神楽が小阿賀野川に流されます。この神楽が登場したのは明治30年頃（1897）で、水害が続いた苦しい生活の中で、神楽を買ってもらうという長年の夢をあきらめ、桟俵と蚊帳を若者たちが持ってきて、宵宮参りの大勢の氏子を前に威勢よく滑稽な舞を披露したのが始まりと言われています。

江南区景観百選

<開催時期> 9月第1土曜日・日曜日

推薦団体　横越コミュニティ協議会

無形文化遺産

須賀神社の獅子舞

すがじんじゃのししまい

江南区川根町2-3-6(須賀神社)

川根谷内獅子舞は、一人立の3匹による獅子舞で、黒い獅子頭に羽根を付けた兄、弟、かか(兄の妻)の3匹が笛や太鼓、獅子唄にあわせて舞う珍しい獅子舞いです。獅子舞の由来は定かではありませんが、250年以上前、村に悪病が流行したとき、北蒲原地方に悪病や悪魔を退治する3匹の獅子舞があることを聞いた村人が訪ねて覚えたとの説があります。古くは12の舞があったといわれていますが、現在では悪魔払いの舞のみが継承されています。須賀神社秋季例祭で厄払い、悪魔祓いとして奉納されます。

<開催時期>

9月第1土曜日・日曜日

推薦団体　横越コミュニティ協議会